

# 我孫子市都部谷津のナガエツルノゲイトウ観察報告

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 間野 吉幸

近年、手賀沼から取水している水田や畦畔にも特定外来生物のナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）が生育し始めています。我孫子市都部谷津の水田に生育しているナガエに対し、耕作している農家のみなさんがそれぞれ異なった対策を講じていました。

美手連では、2022年7月からこの区域に以下のとおり観察地点を設け、ナガエ生育状況の観察を開始しました。今回は2023年2月までの観察結果をまとめました。

協力：浅間茂さん（千葉県生物学会）、林紀男さん（千葉県中央博物館）  
岡発戸・都部の谷津ミュージアムの会、我孫子市手賀沼課

## 観察エリア



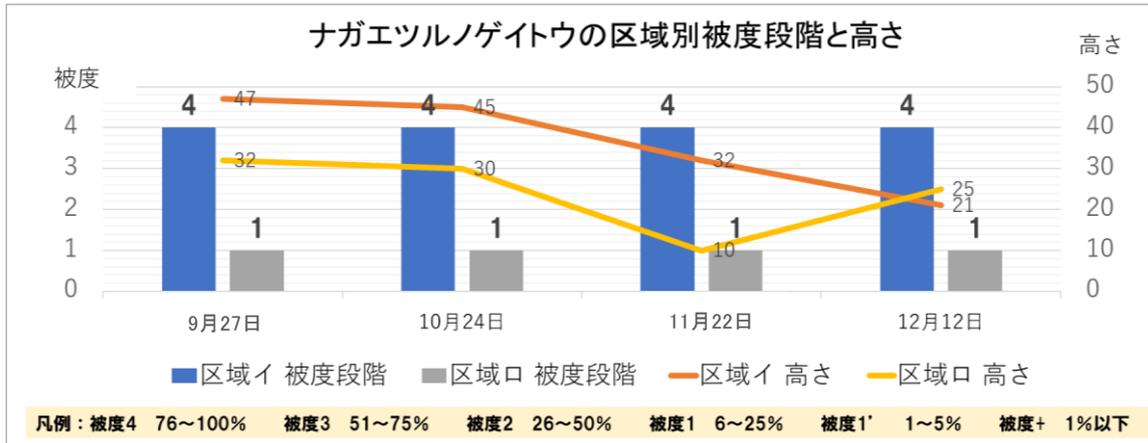
※対象とする区域：縦約230m×横約100m

## 定点観察地点

地点	夏	秋	冬
<b>地点A</b>  吐水口に網掛け (種籾袋再利用) ナガエ流入防止	2022.7.26  網掛け	2022.9.27  網は取り外され、水田にも畔にもナガエはなかった。 畔には除草剤散布か？	2023.1.6  畔は焼却バーナーで草が焼き切られ、きれいに整備されていた。
<b>地点B</b>  除草剤散布 吐水口に網掛けなし	2022.7.26  吐水口付 網掛けなし	2022.9.27  繁茂したナガエ	2023.1.6  吐水口付近
<b>地点C</b>  植物競合	2022.7.26  ナガエの白い花も見られた	2022.9.27  調査区域 口 調査区域 イ	2023.2.20  ナガエの根

地点 C : 2022 年 9 月～12 月までの被度調査の結果の概要

※被度調査は 1m×1m の方形枠内のその植物の種類と枠内の被度を数字で表したものの。



- 区域の特徴：区域イは硬度 7.2mm 水流の傍で、区域ロは硬度 6.3mm 水流より離れている。  
※水分を多く含む土の硬度は高く、柔らかい。
- 被度：区域イはナガエの被度が 4 と高く、他の植物を圧倒。区域ロのナガエの被度は 1 で低く、他の植物が優勢。
- 区域イ、ロとも他の植物は種の交代が頻繁に行われていたがナガエは変わらなかった。
- 冬に近づくにつれてナガエの高さは減少していた。

都度観察地点

地点	夏	秋	冬
<p>地点 D</p> <p>植物競合</p>	<p>2022.7.26</p> <p>吐水口付近にヨシに囲まれナガエ生育。道路際に連続してナガエ。</p>	<p>2022.9.27</p> <p>わずかにナガエが生育</p> <p>ヨシが先月よりも繁茂し、ナガエの生育は目立たなかった。</p>	<p>2023.2.20</p> <p>ナガエは枯れて、確認できず</p> <p>ヨシの密集した場所では、ナガエの光合成が遮られ、生育不良か。</p>
<p>地点 E</p> <p>自然状態</p>	<p>2022.7.26</p> <p>吐水口より農道下の暗渠を通り、水田へ給水。ナガエが繁茂し白い花が咲いていた。水田に迫る。</p>	<p>2022.9.27</p> <p>吐水口付近ではナガエ除去。給水口周辺から水路に近い場所にナガエが繁茂</p>	<p>2023.2.20</p> <p>水路</p> <p>枯草を刈ると水路が見えナガエの茎が大量にあった。水路から離れた場所では、ナガエは殆どなかった。</p>

追加・臨時観察地点

地点	晩秋	冬	冬
<p>地点 F</p> <p>休耕地</p> <p>ナガエを確認 11月19日に除去 (45L 袋 4 袋)</p>	<p>2022.11.22</p> <p>水路の水田側にはナガエの根がたくさん見られた。</p>	<p>2023.2.20</p> <p>当地点は湿潤で隣の水路から水が供給されており、泥の深さは約60cm。根は約40cm以上。</p>	<p>2023.2.20</p> <p>大量のナガエの茎</p> <p>取り残されたナガエが広範囲にある。遮光シート被覆を計画。</p>

地点	晩秋	冬	冬
<b>地点 G</b> <b>休耕田・農道</b> 都部谷津で最初にナガエが見つかった地点。 (焼却前)	 <p>2022.12.12</p> <p>農道に散乱するナガエの茎。休耕田にもナガエの茎がビッシリ。一部発芽していた。</p>	 <p>2023.1.30</p> <p>農道に落ちていたナガエは枯れていたが、一部は地中に根を張っていた。</p>	 <p>2023.1.30</p> <p>地下約1cmの所で横に根を、地中深く約34cmまで根を張っていた。</p>

### 地点 G：焼却実験

準備品：焼却バーナー3台、灯油、レーキ、鎌、小型スコップ、メジャー各種、消火器2台、バケツ10個。

届け出：農道での焼却実験実施の承認（市役所）、消防署への届け出作業：

- ・ 焼却バーナー3台で約6m×約2mの面積を焼却した。1回の焼却では焼き切れなかったのでレーキで掻集め追加の焼却を2～3回実施した。
- ・ 地中に侵入したナガエは対処できなかつた根は残ったままだった。
- ・ 最後にバケツに汲んでおいた水を焼却場所に撒いて作業を終了した。

### 《焼却実験より得られた知見》

- 農道に放置されたナガエは、農道で繁茂していた。農道を行き来する人や車によって他の場所に運ばれナガエが拡散する恐れがあるので、農道に放置しないことが肝要。
- 地中のナガエは春になると発芽するので、成長する前に摘み取るなどして、農道での繁茂を無くす努力が必要かもしれない。
- 焼却面積約12㎡（約6m×約2m）を焼却するのに、焼却バーナー3台で1時間20分を要した。
- 表面は焼却出来たが地中までは出来なかった。



### 2022年7月より2023年2月までにおけるナガエの各地点の観察結果

**地点 A** 網掛けしていた水田はナガエの侵入なし。侵入を完全に防御した。

**地点 B** 除草剤でいったんナガエは枯れるが再発芽、水田に侵入。刈り取った茎から根が発生。

**地点 C** 水分の多い区域でナガエが多く繁茂し勢力を維持、他の植物より強かった。上面は枯れても根はしっかりと根付いていた。

**地点 D** ヨシ等の繁茂地では内部への光の差し込みが少なく、ナガエの勢力は弱かった。

**地点 E** 他の植物と競合しているが、水路の所では圧倒的にナガエが優勢。地中に深く根付き、一部水田に進出した。

**地点 F** 放置された休耕田は水路からナガエが侵入し、地中深く繁茂し除去が大変な状態になっていた。

**地点 G** 休耕田脇の農道に放置されたナガエの茎から発根し、根付いていた。

### まとめ

- 1) ナガエは入口で止める。絶対中に入れない。⇒網掛けを推奨。
- 2) 入れたら駆除に手間暇がかかり大変。今の農薬では効果小さい。
- 3) 休耕田からもナガエが繁茂。放置すると地域全体に広がる恐れがある。
- 4) 駆除したナガエを放置したままではナガエ拡大の要因になる。ナガエの処理問題が発生している。